

## チェアアンパイアのつかない試合方法・セルフジャッジの方法

作成： JTA公認審判員C級 細谷泰弘 台東区テニス協会理事長代理  
JTA公認審判員C級 岩淵扶美子 台東区テニス協会常任理事

プレーヤー・チームが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下の通り行う。

- 1) サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。  
プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定出来なかった時は「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。
- 3) 判定とコールは、**相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って**、ボールの着地後速やかにおこなう。代表的なハンドシグナルは、**人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す**。

- 4) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレーヤーが直ちに「グッド」に訂正した場合は、1回目に限り故意ではないとしてポイントレットとなる。

ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを1人が「フォールト」、パートナーは「レット（グッド）」とコールした場合は「（サービスの）レット」となる。

- 5) クレイコートでは、相手プレーヤー・チームにボールマークの確認(BMI)を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。相手と判定が食い違った場合はレフェリーが最終判定をする。両者が示すボールマークの位置が食違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMIを申し出るプレイヤーには、レフェリーが適切な処置を取る場合もある。

**クレイコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。**

- 6) インプレー中、他のコートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。
- 7) インプレー中、プレイヤーがラケット以外の着衣、持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目の時は、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレイヤーが失点する。レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールする事はできない。相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。ただし、落したことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
- 8) スコアがわからなくなった時は、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなった時も同様に処理する。再開する時のエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、

次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレイヤーが2ゲーム連続サーバーになれない)

- 9) 次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
  - a. 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
  - b. 相手プレイヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
  - c. プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起きた時
- 10) メディカルタイムアウトを取りたい時は、レフェリーかロービングアンパイアに申し出る。 トレーナーのいない大会ではプレイヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。
- 11) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。
- 12) 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。
  - a. 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレイヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
  - b. 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレイヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
  - c. 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアの何れかがコールする。
- 13) オーバールール  
「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれかが行える。
- 14) 妨害によるレットのコール  
コート外から妨害による「レット」のコールは両プレイヤー・チームができる。対戦相手による無意識の妨害（落し物1回目を含む）は妨害を受けたプレイヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
- 15) 誤ったコールを直ちに訂正した場合  
インだったボールを誤って「アウト」とコール（ミスジャッジ）したが直ちに訂正（コレクション）した場合は、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレイヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
- 16) 対戦相手からの故意の妨害  
「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレイヤー・チームからの申し出によりレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアが判断する。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害と見なされない。

2020年日本テニス協会『日本テニス協会公認審判員C級』資格講習会資料、『日本テニス協会テニスルールブック2020』引用